

推薦する取り組み	園館名
ビーバーの生態を引き出す巣作りの取組	阿蘇ファームランド ふれあい動物王国

バイオパークの支店

「阿蘇ファームランドふれあい動物王国」

動物の状態・課題

これまでは巣の大枠を飼育員が作っており、ビーバーの自発的な巣作りは活発ではなかった。園周辺が国立公園に指定されており、自然木の調達が困難であり、齧る、摂食といった本来の行動機会が制限されていた。夜間も単調な活動が中心で、環境への働きかけは乏しかった。加えて、展示場は観光施設の一角にあり、池の排水が施設の污水系統に直結しており、枝や土砂の流出が詰まりを引き起こし、排水管理に多大な手間を要した。

取組の動機

- ・ビーバー本来の行動（伐採、巣作り、水中活動）を引き出し、行動の質と動物福祉を向上
- ・野生に近い行動を来園者に観察してもらうことで、興味と理解を深める
- ・設備や広さの制約の中でも、創意工夫によって飼育環境を豊かにする

取組内容と工夫

- ・巣材として木、石、泥状の土砂を用意し、飼育員の補助がなくともビーバーが一から巣を作る環境を整備
- ・土砂に牧草、枯葉、小石を混ぜることで、より自然に近い巣材を再現。単純な泥状の土砂に比べ反応が向上
- ・伐採した木材は展示場内に植えることで自ら齧り倒す行動や、池に浮かべることで水中での採食、運搬行動を引き出した
- ・夜行性を考慮し、閉園間際に池へ木を浮かべることで、夜間に木を避けて潜る、押しのける、池から出すという行動が増加
- ・排水対策として、6種類の流出防止ネットを活用
- ・地域の土地所有者と協力し、合法的に木材採取可能な場所を確保

成果と意義

巣材の導入や空間の工夫により、ビーバー本来の行動が顕著に観察されるようになった。夜間の行動も活性化し、行動の質と多様性が向上した。排水問題には流出防止ネットを試行することで改善を図った。木材の合法調達についても地域と連携し制度的、物理的な制限が多い中でも、創意工夫によって動物福祉の向上と展示の質の両立を実現した取組であり、他施設への応用可能性も高い。

推
薦
理
由



